

目次

(193) 共用品推進機構関連記事

▽「共用品が広げる新たな可能性 みんなの会議／星川安之」

(194) その他、各種関連記事

▽「フォード車、声で操る

／米フォード・モーター、米アマゾン・ドット・コム」

(195) 新刊紹介

▽『発達障害の子のための「すごい道具」

使ってみたら、「できる」が増えた』

▽『発達障害の子をサポートするソーシャルスキル トレーニング実例集』

▽『自閉症と感覚過敏 特有な世界はなぜ生まれ、どう支援すべきか?』

-----  
(193) 共用品推進機構関連記事

▼「共用品が広げる新たな可能性 みんなの会議／星川安之」

2014年、国際ルールの制定を行う国際標準化機構(ISO)は、日本から提案された「アクセシブルミーティング(みんなの会議)」の規格を、国際規格として発行しました。

新たに製品を作る際、その対象者を幅広く想定し、企画段階でその人達のニーズや身体特性を知ることができれば、「作ってしまったから使えない人がいることを知る失敗」の多くを回避することができます。

その一つの答えがアクセシブルミーティング、つまり関係する人達も広く交えて会議を行うことでした。

共用品推進機構では、異なる障害のある人が会議に参加するたびに、アクセシブルミーティングを、試行錯誤を繰り返しながら学んできました。

「ここに置きます」の代わりに、目の不自由な人には「20センチ前に置きます」というように具体的に言うと伝わること、耳の不自由な人の中には話している人の口の形を読んでいる人がいるので、うつむいて喋ったりマイクで口が見えないようにしたりしないことなどです。

是非一度、試してみてくださいと思います。

(月刊トイジャーナル 2017年2月号より抜粋)

---

#### (194) その他、各種関連記事

##### ▼「フォード車、声で操る

／米フォード・モーター、米アマゾン・ドット・コム」

米フォード・モーターと米アマゾン・ドット・コムは、「声」で車のエンジンスイッチを家から遠隔で入れたり、カーナビを操作できたりする新システムを開発した。両社は昨年協業を発表しており、その具体策が出た形。フォードはIT(情報技術)企業との連携を強化し、車を使ったサービス事業の強化を目指す。

人工知能(AI)を使った音声認識アシスタント機能「アレクサ」をフォードの車載音声認識システム「シンク」と連動させる。まず「フォーカス・エレクトリック」などの電気自動車(EV)やプラグインハイブリッド車(PHV)を対象に、遠隔の車を家から声で操作できるようにする。

(日経産業新聞 2月7日5面より抜粋)

---

#### (195) 新刊紹介

##### ▼『発達障害の子のための「すごい道具」

使ってみたら、「できる」が増えた』

発達障害の子の「できない」は、道具を使うことで解決できる。結ばなくていい靴ひも、残り時間が見えるタイマー、声の大きさを自覚できるメーターなど、実際に使って効果があった道具を、家庭でできる工夫とともに紹介する。

著：安部博志（あんべ・ひろし）

発行：小学館

本体価格：1000 円（税別）

ISBN：978-4-09-101648-5

▼『発達障害の子をサポートするソーシャルスキル トレーニング事例集』

幼児期から中学生ごろまでの発達障害の子どもたちが苦手と感じやすいソーシャルスキルを取り上げ、その事例とトレーニング法、般化のポイントを解説する。コピーして使えるワークシート等を掲載した別冊指導教材付き。

監修：腰川一恵（こしかわ・かずえ） 山口麻由美（やまぐち・まゆみ）

発行：池田書店

本体価格：2200 円（税別）

ISBN：978-4-262-15489-3

▼『自閉症と感覚過敏 特有な世界はなぜ生まれ、どう支援すべきか？』

感覚過敏と、そこから生まれるこだわりをもつ自閉症の人々は、社会生活や学習の場で、どのような困難に直面するのか。感覚過敏の意味を当人の声や独自の調査により探り、自閉症の成り立ちと支援のあり方を探る。

著：熊谷高幸（くまがい・たかゆき）

発行：新曜社

本体価格：1800 円（税別）

ISBN：978-4-7885-1507-9

---

（編集後記）

平成 25 年（2013 年）から始めた「良かったこと調査」。障害のある人や高齢者の皆さんにご協力を頂き、初年度は「旅行」をテーマに交通機関、宿泊施設、レストランや食事処の良かった人的対応や設備を伺いました。2 年目は「コンビニエンスストア」、3 年目は「医療機関」、そして今年は「家電製品等」についての良かったことを調査しています。

不便なことを言える環境は必要ですが、良かったことを伝える場は、より良いモノ作りをしていくことや環境整備には欠かせないものの一つです。

今年の調査結果もとても興味深く、他の製品にも応用がきく回答がたくさん

あります。

自分達にとって当たり前だと思っていた工夫は、誰かにとっては本当に助かる工夫であることに改めて気づける回答の数々は、来年度に弊機構ウェブサイトでお知らせしますので、また皆さまにご覧いただけますと幸いです。

これまでの良かったこと調査は以下からご覧いただけます。

[http://www.kyoyohin.org/ja/research/report\\_goodthings.php](http://www.kyoyohin.org/ja/research/report_goodthings.php)

(森川美和)

共用品推進機構公式サイト <http://www.kyoyohin.org/>

共用品ニュース (ブログ) <http://www.kyoyohin-news.org/>

共用品推進機構公式 Facebook <https://www.facebook.com/kyoyohin/>